



御中

2014年 月 吉日

特定非営利活動法人がんフォーラム山梨

理事長 若尾直子 印

「山梨県下統一がん患者 self care book(仮称)」作成に伴う寄付依頼趣意書

貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2013年度に開催いたしました第7回山梨がんフォーラムをはじめとした「山梨がんサミット」では、山梨県庁健康増進課をはじめとし、さまざまな医療資源、多くの企業様との七位一体の具体的な実践として皆様より高い評価をいただきました。誠に有り難く、心より感謝申し上げます。

活動の中心に位置づけている「山梨県がん対策推進条例」の制定は、山梨県のがん対策の法的根拠として第1回山梨がんフォーラム開催時からの念願でした。皆様ご存じのとおり2012年4月にこの条例は施行されましたが、今後は本条例を基に当事者の視点でがん医療環境のさらなる充実を目指していきたいと思っております。

昨年度の企画の中心「第7回山梨がんフォーラム」では、さまざまな分野のステークホルダーによるパネルディスカッションで、がん療養のための当事者が書き込める「がん療養手帳」が必要性だという纏めに至りました。この結果を受け、山梨県知事あてに「母子手帳のように各自が書き込める県下統一のがん療養手帳」の必要性を要望したところ、当法人は山梨県から「がん患者療養生活手帳(仮称)」作成の委託を受ける運びとなりました。

そこで、県から委託を受け作成する「がん患者療養生活手帳(仮称)」に併せ、当法人では、患者視点での医療情報や療養生活のヒントなどを掲載した「療養生活お役立ち情報誌」と、これら2つの冊子を一つにまとめる「手帳ホルダー」を作成し、「山梨県下統一がん患者 self care book(仮称)」としたいと考えております。その実現のために、七位一体の連携で、山梨県のがんの克服を目指すさまざまな分野の皆様、「情報誌」と「手帳ホルダー」の作成に係る経費の御寄付をお願いするしだいです。

つきましては趣旨をおくみとりの上、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



私たち当事者の声を反映し、七位一体の連携で作成する「**県下統一のがん患者 self care book(仮称)**」は、暮らしやすき日本一を目指す山梨県にとって大きな財産となります。また、日本のモデルになり得る『**当事者主体のがん医療環境構築**』にあたりと確信しております。

今回作成する手帳のイメージは以下の写真のとおりです。



何年も続く治療・療養生活を、よりスムーズに、よりの確な治療療養に沿った形で進行できるよう、一定の目安になるような内容にしたいと考えております。

母子手帳のように医療従事者に協力してもらいながら書き込む部分と、治療療養が進んでいくうちに記録しておこうと思う部分が混在しつつ、結果として自身の療養の記録になることを狙っています。

皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

手帳作成概要

手帳サイズ B6

「がん患者療養生活手帳」

3300部

(胃・大腸がん：各 800部、肺・乳がん：各 600部、肝臓がん：

500部)

「療養生活お役立ち情報誌」

3300部

「手帳ホルダー」

3300枚

※ 実施スケジュール 2015年3月末日までに作成し、2015年度の配布を予定

本企画責任者 特定非営利活動法人がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子

※ お申し込み・お問合せは以下の事務局FAX及びメールにてお問合せください。

《事務局》

〒400-0025

山梨県甲府市朝日 2-16-19

地域コミュニティー広場 花水木内

NPO 法人がんフォーラム山梨 事務局

tel/fax : 055-252-7687

メール : gf-yamanashi@biglobe.jp



※ この事業は、山梨学院大学ビジネス学科今井久教授、首都大学東京保健福祉学部看護学科福井里美准教授、コミュニティー広場「花水木」の協力を得て企画しています。